

(別紙)

国内線「燃油特別付加運賃」設定にいたる背景

1. 燃油価格高騰の影響

本年度当初34ドル（シンガポールケロシン市況価格）を見込んでいた燃油価格は、本日現在63ドルを超えるレベルに達しており、過去例を見ない事態に立ち至っております。JALグループ業績に与える影響は極めて深刻であり、本年度は500億円程度に達すると見込んでおり、また、来年度は現時点のレベルで推移すると、1000億円を超える影響となります。

2. 燃油価格高騰に対する対応

2002年にJAL/JAS統合を承認いただいた際の国内線普通運賃に関するお約束は、統合の効果を利用者の皆様に還元する観点から行ったものであり、重く受け止めております。

このために、コスト削減を中心とする400億円以上の営業収支改善に取り組むなど、国内線運賃値上げを極力回避すべく最大限の努力をしてみましたが、航空燃油費増加をカバーするまでには至っておりません。

したがって、誠に遺憾ではございますが、利用者の皆様に一部ご負担をお願いせざるを得ないとの判断に立ち至ったものであります。

(参考)

